## 1．目的

　望ましい社会システムとはどのようなものだろうか。これは社会学の根本的な問いの1つである。単純に言えば、人々の欲求を満たし、幸福感を高めてくれる社会は、優れた社会システムとして評価される。しかし、人々が何を幸福と捉えるかには個人差があり、その衝突や矛盾にこそ社会の難しさがある。その意味では、どのような人々がどのような点を幸福のために重要と考えているのか、その多様性の要因を知ることは、様々な社会学的探求のために役立つ。

　人々は、収入や地位、人間関係、余暇活動、健康などさまざまな事柄を幸福のために重要な要素と考えている。今回の報告では、その中で「容姿を重視するのはどのような人々か」という点に注目する。人生の中で容姿を重視することは、社会的にタブー視されている面もあるが、ある種の人々にとっては人生を左右する重要な側面である。また、人々の容姿は、個人的、社会的努力による改善が比較的困難であるため、深刻な社会問題も引き起こしており見逃せない。具体的には、美容に過度な金銭・時間をかけてしまう問題や、容姿への強い関心が拒食症などの病理に結びつくこともある。

　そこで、この報告では、「容姿が重視するのはどのような人々か」を統計的に調べる。容姿を重視する人々の特徴を知ることは、上記のような不幸を防ぐためにも役立つだろう。また、そもそも、容姿の影響を正面から考えることがなぜタブー視されるのか、その社会的なメカニズムを考える上でも役立つ可能性がある。

## 2．方法

　分析には、2005年10～12月におこなった「中高年の幸福感についての意識調査」を用いる。この調査は、東大阪市在住の40～59歳の男女から無作為抽出した標本調査で、郵送法により246人の回答を集めた（計画標本700人、回収率35.1％）。すでに重要なライフイベントを終えている中高年の幸福感・価値観を調べることで、空想としての人生像ではなく、ある程度リアルな実感をともなった人生の中で、容姿と幸福の関係をどう考えているのかが読み取れるはずである。

　幸福感に関係するいくつかの質問項目の中で、幸福にとって「容姿」がどの程度重要と思うかを尋ねており、「極めて重要」「とても重要」「ある程度重要」「少しは重要」「重要でない」の5段階で回答を求めている。今回の分析では、この「容姿を重視する程度」（Q03f）を従属変数として、「どのような人々が容姿を重視しているのか」を回帰分析で明らかにしようと思う。なお、この変数は重要と思っているほど得点が高いようにリコーディングした5点満点の変数で用いている。

　回帰分析の中心的な独立変数は、自分自身の「体力」「頭のよさ」「手先の器用さ」「容姿」「性格」のそれぞれについて、自信の程度を表す5つの変数である。これによって、どのような点に自信がある（あるいは自信がない）人が、幸福にとって容姿を重要と考えているのか、を明らかにできる。選択肢は「自信がある」「どちらかといえば自信がある」「どちらかといえば自信がない」「自信がない」の4択で、自信があるほど得点が高いようにリコーディングした4点満点の変数を用いる（Q31a～e）。

　また、これらの変数に加えて、基本的な人口学的変数として、性別（女性ダミー）（Q01）と年齢（Q02）も独立変数に加える。この回帰分析によって、「どのような人々が容姿を重視しているのか」の一端を知ることができるはずである。

【違った変数を独立変数として回帰分析をしたければ、やってみてもかまわない（従属変数は変えてはならない）。独立変数を変更する場合は、「2．方法」の記述を書き換えて、どのような分析にしたのかわかるように記すこと。】

## 3．結果

【回帰分析の結果を図表と文章で表現すること。最低限必要なことは、①回帰係数の読み取り、②調整済みR2の読み取り、③全体的な検定結果、④各独立変数の影響力の検定結果、である。ただ数字を並べるのではなく、具体的に何がわかったことになるのか、回帰分析のことを知らない人が読んでもわかるような書き方を努力すること】

【できれば、回帰分析の前に各変数の基本情報（度数分布や平均、標準偏差など）の図表がある方がよい。余裕があれば作成して、読み取ること】

## 4．考察とまとめ

【分析結果の解釈や意味、今回の調査や分析の問題点などを考えて、文章にする。この部分は、ある程度根拠のない主観的な表現でよい。最後には、結局何をしようとして何がわかったのかを簡単にまとめ直すこと】

【もし、何か参考にした文献があるならば、書誌情報（著者・出版年・タイトル・出版社）を示す。今回は小課題なので、基本的にはそこまでする必要はない】

【別途、表紙を付けて、レポートのタイトル（自分でつける）、氏名、学籍番号、提出日、授業名などを記すこと】